

## 2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	アカデミック・スタンダード小委員会	主 査 名：加藤信介 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：加藤信介
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築および都市の環境工学に関する性能項目、性能基準(規準) 検証方法の学会としての基本姿勢を研究者や実務家、各種団体、行政に対して明示する。</li> <li>・ 新しい学術的成果や技術的展開をアカデミック・スタンダードとして示す。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無(2007 年度)	
	加藤信介(東京大学), 伊藤一秀(九州大学), 北原博幸(トータルシステム研究所), 池田耕一(国立保健医療科学院), 神谷博(設計計画水系デザイン研究室), 木村健一(フジタ), 佐藤洋(産業技術総合研究所), 関五郎(日建設計), 土川忠浩(兵庫県立大学), 中島康孝(NPO法人建築環境・設備技術情報センター), 永峯章(東洋大学), 平手小太郎(東京大学), 福地智子(永田音響設計)	
設置 WG (WG 名:目的)	<p>参加している運営委員会：</p> <p>音環境運営委員会(学校施設の音環境アカデミック・スタンダード WG, 音声伝送品質設計・評価指針作成 WG)</p> <p>熱環境運営委員会(温熱環境測定法学術規準解説書 WG, 室内温熱環境設計法学術規準解説書作成 WG, 温熱心理生理測定法学術規準解説書 WG)</p> <p>空気環境運営委員会(TVOC による室内空気環境に関するアカデミック・スタンダード 検討 WG, 化学物質の設計・施工に関するアカデミック・スタンダード 検討 WG, アトアレルギーに関するアカデミック・スタンダード 検討 WG, トイレに関する学会基準作成 WG, 室内微生物制御 WG, 室内の臭気測定法検討 WG, アスベストに関する学会基準作成 WG)</p> <p>建築設備運営委員会(設備管理指針検討小委員会, 設備設計図書に関するアカデミック・スタンダード小委員会)</p> <p>水環境運営委員会(廃棄物・ごみ処理設備環境評価小委員会, 雨水利用システム規格小委員会)</p> <p>光環境運営委員会(光環境性能・基準小委員会)</p> <p>電磁環境運営委員会(電磁環境アカデミック・スタンダード WG)</p> <p>企画刊行運営委員会：各運営委員会から刊行段階で移行</p>	
2007 年度予算	900,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s8/default.htm">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s8/default.htm</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校施設の音環境保全規準・同設計指針</li> <li>2. 室内温熱環境測定法学術規準・同解説</li> </ol>
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 刊行したアカスタ 3 件、内部査読に達したアカスタ 7 件である。</li> <li>2. 2 年間で刊行目標 9 件に対して初年度 3 件が達成、来年度には残りの刊行が可能と思われる。</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	特になし

## 2007 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2年間での目標の刊行9件に対し、            学校施設の音環境保全規準・同解説            室内温熱環境測定法学術規準・同解説            設備管理ガイドライン            の3つで刊行を実現できている。            一方、パブコメ直前の内部査読を実施しているのが、            温熱心理生理測定法学術規準・同解説            TVOCによる室内空気環境に関するアカデミック・スタンダード(仮)            アセトアルデヒドに関するアカデミック・スタンダード(仮)            トルエンに関するアカデミック・スタンダード(仮)            室内微生物制御マニュアル(仮)            設備設計図書に関するアカデミック・スタンダード            リサイクルを目的とした建築計画とごみ処理システムのガイドライン”「大規模事務所・商業施設および集合住宅の運用管理」            の7つであり、            さらに、今年度は今までの懸案事項となっていた            環境基準総則            について、環境工学本委員会への報告が完了した。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。